

特集

ライターSの患者さんインタビュー⑦

「ひるま矯正歯科で再治療できてよかった」

非抜歯治療に惹かれ他院で治療をした後、ひるま矯正歯科で再治療をしたAさんにお話を伺いました。インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページで。

◆最初にひるま矯正歯科に相談に行った経緯を教えてください

— 親の勧めで、そんなに深く考えずに3軒ぐらい初診相談に行きました。その一軒がひるま矯正歯科でしたが、顎のサイズと歯の大きさが合っていないので、矯正治療をするなら抜歯が必要ですよと言われてました。でも健康な歯を抜くのは抵抗があって非抜歯で治療をしているという他の医院を選んでしまいました。

◆非抜歯で治療ができるという医院での治療はいかがでしたか



— リテーナーになった段階で、顔の変化に気がつきました。下あごが下の方に伸びた感じで、全体的に顔が面長になっていました。顎のサイズと歯の大きさがあっていなかったのに非抜歯で治療をしたために、歯列が拡大されて、私の場合は前と下の方向に顔が伸びたんだと思います。法令線もできやすくなって、口全体も前に突出しているし、見た目がすごく変わってしまっただけです。すごくショックでした。口はもともと閉じにくかったけど、さらに閉じにくくなって…綺麗な歯並びになった以外は、すべて悪化したという感じ。矯正しなければよかったと何度も思いました。

— その後、ひるま矯正歯科に再来院されました

— とにかくなんとかしなくちゃと思って、その病院にはもう行くのをやめて、自分なりにいろいろ調べてから、ひるま矯正歯科の質問コーナーで相談をしました。最初に行った時の歯型や資料があったので、経過もわかってもらえたとし、何よりもこういう治療をしたらこうなりますよというのをきっちり説明してくれたので安心でき、再治療をすることに決めました。

◆再治療をしてよかったですか

— 本当によかったです。1回目だけで終わっていたら、後悔をずっと引きずってままだでした。

◆転院は大変でしたか

— 時間もお金もかかって本当に大変でした。私がそれでもラッキーだったのは、一番最初にひるま先生に診ていただいていたので元々の資料があったことです。転院は安易にお勧めできないので、治療を始める前に調べたり悩んだりしておくというのが大切だと思います。

1回目の治療ですごく落ち込んだというAさん。今は笑って話せるようになり本当に良かった!! (S)



Aさんの症状について解説します

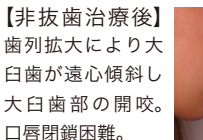
●初診時の診断：「上下顎前突・他院での再矯正治療症例」

Aさんの治療開始までの経過はやや特別で、16歳で初診、上下顎前突(両側歯列)及び叢生歯列により抜歯による矯正治療が必要と診断したところ抜歯が心配と言う事で当院での治療は中止。その後17歳から約2年半、都内矯正歯科で治療後、20歳で非抜歯により歯列が拡大し、口が閉じにくくオトガイ部の緊張感も強くなったので改善を希望して当院再診。上下顎前歯の唇側傾斜及び歯列の拡大による口唇の突出感及び口唇閉鎖時の口唇周囲及びオトガイ部の緊張感、スマイル時に軽度のガミースマイル、大白歯部開咬と診断。歯列弓の拡大により叢生は改善されていました。

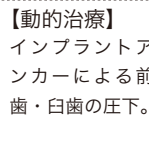
基本的な診断及び治療方針は初診時と同じ方針としたほか、非抜歯矯正の影響による問題点の改善が必要と考え、小臼歯の抜歯に加えて上顎前歯部の圧下用インプラントアンカーを使用する事としました。治療結果は治療計画通り、上下顎前歯が後退した事、下顔面高が短くなった事により口唇閉鎖時の軟組織緊張感は改善され、臼歯部の開咬も改善され咬合は安定しました。



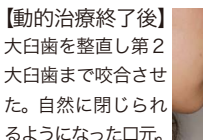
【初診時】



【非抜歯治療後】
歯列拡大により大白歯が遠心傾斜し大白歯部の開咬。口唇閉鎖困難。



【動的治療】
インプラントアンカーによる前歯・臼歯の圧下。



【動的治療終了後】
大白歯を整直し第2大白歯まで咬合せた。自然に閉じられるようになった口唇。